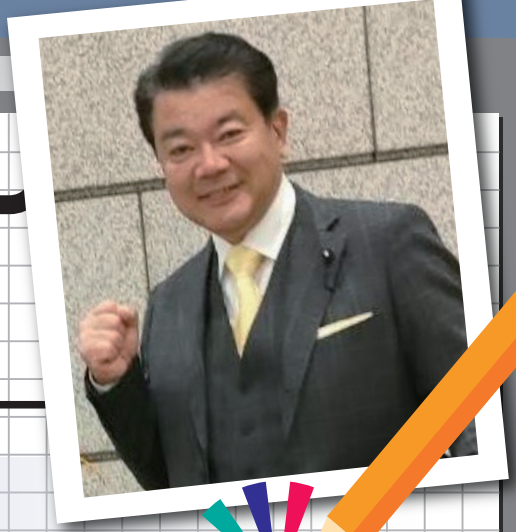
2025. 12

埼玉民主フォーラム



埼玉県議会議員
小川ひさし県議会レポート

若い世代のがん患者支援について

9月定例会活動報告

10月10日、少子・高齢福祉社会対策特別委員会において、若い世代のがん患者支援などについて質問しました。

委員会では、どのような提言をしたの？

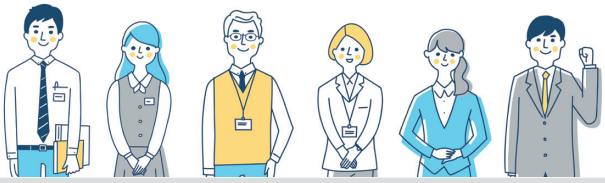
治療のために離職した人が再度就業しやすい環境整備のため、がん患者を新規に雇用した事業者に奨励金を支給する「がん患者就労支援奨励金制度」の創設を提言しました。

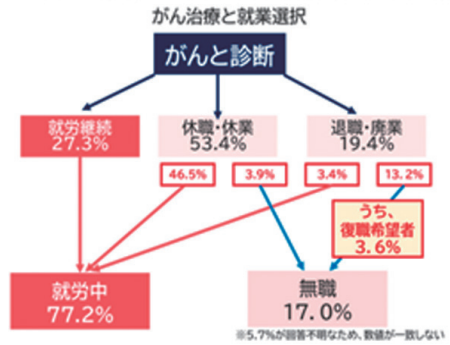
「患者就労支援奨励金制度」とは？

国の制度には、そのような制度はありませんが、例えば、**東京都では東京都独自の助成金として、難病やがん患者の治療と仕事の両立に対して積極的に取り組む企業を支援するため、奨励金を支給する制度を導入しています。**

がん患者の治療と仕事の両立支援について

「がん患者の1/3は就労世代(20～64歳)であることや、定年延長等、働く人の高年齢化によって、働きながらがん治療を行う患者が増えています。」





(出典)「患者体験調査報告書」
令和5年度調査(最終版)をもとに埼玉県が作成

AYA世代終末期在宅療養支援事業について

制度はどのような内容なの？

若い世代のがん患者(18歳～39歳)の方が終末期を自宅で療養したいと希望しても、訪問介護や訪問入浴、介護用ベッドなど福祉用具に対する国の公的助成制度はありません。
※18歳までは、小児慢性特定疾病医療給付制度を利用でき、40歳以上は介護保険が利用できます。

しかし、若い世代の患者さんの中には、子育て中の方も少なくなく、子どもたちと一緒に過ごしたいと希望する方もいらっしゃいます。**こうした方々が、安心して終末期を自宅で療養できるように介助費用などを助成するための埼玉県の制度です。**
さいたま市は、県にさきがけて令和3年4月に制度化し、県においては令和5年12月に制度化しました。県は、若年終末期がん患者は100人程度いらっしゃり、そのうち50人は制度を利用して在宅療養を希望していると説明しています。

委員会での発言内容は？

県の制度を活用して実施するかしないかは市町村が判断します。現在、県内63市町村のうち30市町で制度が導入されています。

(イラスト出典　埼玉県)

しかし、このような支援を必要とする患者さんは、県内どこに住んでいてもいらっしゃいます。**残りの市町村が導入できない原因を調査して、できる限り早期に全市町村で導入されるよう提言しました。**

よもやま話

10月13日吉本新喜劇埼玉公演がさいたま市文化センターで開催されました。今回は、私の師匠西川きよしの長男の忠志君が出演していることもあり、行って参りました。間寛平さん、酒井藍さんに忠志君が絡み合い大爆笑の連続でした。私が18歳で西川きよしに弟子入りした当時、忠志君は中学2年生でした。あれから43年。さいたま市で活躍する姿を目にすることができて感無量でした。

昭和60年内弟子当時
西川ファミリーと

発行 埼玉民主フォーラムさいたま市北区支部　小川ひさし事務所
〒331-0813 さいたま市北区植竹町1-719-9-102　TEL 048-669-7270　FAX 048-669-7271